Mの意味は「マネジメン

知っていたが、国土交通省全体で じ。3次元設計に取り組む事例は

「実は、ここに来て初めてCI

う言葉を聞いた」と、九州地方整 ォメーション・モデリング) といM (コンストラクション・インフ 課長補佐は明かす。「わたしも同 備局企画部技術管理課の阿部成了 試行に乗り出していることは知ら 現在のポジションに異動して、ま なかった」と、乗原正純工事品質 もなく1年が経過する。大きく変 調整官も赴任当初を思い出す。 ともに熊本河川国道事務所から

5.州地方整備局 ようになった。 いて自分なりのイメージを持てる える」と、CIM導入の効果につ とし、阿部氏も「不具合が出た時、 善につながる糸口を見いだせる」 後の維持管理のあり方を大きく変 すぐに属性情報に戻れることが今 の工程に受け渡すスキームが確立 できれば、発注者の大幅な業務改 た。 桒原氏は「3次元モデルを次

会(委員長•小林一郎熊本大教授) 局内に九州地方CIM導入検討

の改善意識を持つことが重要で、

が少なからずあった。桒原氏は

(おわり・西原一仁)

った。事務所時代は現場の最前線 わったのはCIMへの理解度であ で設計者や施工者と向き合ってき やした。CIMの概念説明にとど 出先事務所を巻き込む形で、整備 を発足したのは2013年7月。 出席。1回の会合には3時間を費 けて全了地区で実施した説明会に を切った。同年9月から12月にか 課題整理を行ってきた。 も出席者から具体の意見を聞き、 局としてCIMの推進に舵(かじ) まらず、業務改善の糸口について 事務所から延べ約250人が

に力を注いだ。発注者自身が業務 化することだけがCIMであると 強調してきた。阿部氏は「3次元 は、CIMの位置付けであった。 の「モデリング」ではなく、あえ 重視したのは "M" の部分。 通常 て「マネジメント」を使うことを いう間違った認識を取り除くこと 検討会が周知徹底を心がけたの

から延べ250人が出席した 7地区で開いた説明会には出先事務所



も、アレルギー反応を訴える意見 広がっていた。各地区の説明会で するのではないかという不安感が 入によって、自らの業務量が増加 ジメント手法」であると訴える。 われわれにとってのCIMはマネ 発注者の中にはCIMの試行導

効果を得ることが大切。それには、 られる」と考えている。 しっかりと目的を持つことが求め 「すべてを3次元化するのではな 部分的に取り入れ、最大限の

3. 毎 日

6. 中日

9. 伊勢

12.日刊工業

しているのだ。 探るよう促している。局を挙げて、 用することを前提に、導入目的を まで3次元モデルデータを有効活 いる。出先事務所には維持管理に 討会による課題整理が下支えして よく試行案件が抽出できたのも検 た。他の整備局に比べ、バランス 段階で3件を試行対象に選定し CIMに対する認識を変えようと 13年度は設計段階で3件、施工

なく、まさにマネジメントのCI Mの姿だ。それはモデリングでは の調査段階から順を追って維持管 理段階まで引き継がれていくCI てくれば」と期待をのぞかせる阿 から試行の取り組みが自発的に出 14年度以降、7地区それぞれ 描いているのは、最も上流

【建設ICT】

1. 日 経 2. 朝 日 4. 読 売 5. 岐阜 7. 産 経 8. 静 岡 10.中部経済 11.建 通 **③**建設通信 14.信濃毎日 15.日本海事 16.建設工業

· 夕) P |

平成26年 3 月 6 日((朝)